

平成27年度 第2回 図書館協議会会議録

日時 平成28年2月19日（金） 15：30から16：30

場所 松原図書館 集会室

出席者 図書館協議会委員

藤野寛之委員、永田拓治委員、長野友香委員、砂山雅江委員、内田展子委員、白石圭二委員、田崎由佳委員

事務局 後藤田館長、手束参事、三浦係長、春名主査

○（三浦係長）平成27年度第2回松原市図書館協議会をはじめます。石田委員と鈴木委員が欠席。資料は2枚。本日の次第と案件（1）平成28年度予算（案）についてです。

○（後藤田館長）初めの挨拶。市民図書館平成28年度予算案とその他について審議をお願いします。

○（藤野会長）市民図書館平成28年度予算案について事務局より説明をお願いします。

○（手束参事）市民図書館平成28年度予算案について説明（別紙資料参照）

5タイトルに分けて説明するが、数字的なことは公表はしているが、正式な上程数字として固まるのは来週になるため、概略を説明します。

市民図書館管理運営事業については、6館ある図書館の営繕の経費やシステム使用料・図書費などです。今年度とさほど変わらない額を計上している。

読書活動推進事業については、図書館で読書を推進するための事業で、例えば大人向けに古典文学講座を6回している。来年度も同様の事業を企画している。子どもの読書活動推進のために各館で小さなお子さんを対象に読み聞かせなどを行っている。この事業をするために職員だけでなくボランティアにも研修をしてスキルアップをしている。また赤ちゃん向けの行事を企画し、そのボランティアを養成する講座もしている。こちらも今年度と同様に予算をあげている。

障害者支援事業としては、障害者の利用するデジタイズ図書を製作している。そのためのボランティア団体は松原あめんぼテーブルライブラリーと松原市朗読研究会である。

障害者の自宅へ行って朗読するサービスもある。このような事業の予算を計上している。

こちらも今年度と同様の予算を積んでいる。

電子書籍サービス事業は平成26年7月1日から大阪府下で3番目にサービスを開始したものである。パソコン・タブレットを通じて読書する事業である。サーバにアクセスする使用料と図書を閲覧する使用料の予算を計上している。こちらも若干下げているが、ほぼ同等の予算を計上している。

新図書館建築調査事業は平成25年5月に答申をいただいた中にある、新図書館建設か増改築が具体的に動き出していて予算計上となっている。この中身については建設調査であって建設予算ではない。場所の測量のための予算である。こちらの調査で条件が合致してくれば図書館の建設予定地になっていく。そして新たな予算を計上していくことになる。

このことを平成28年度に着手していくので報告します。目玉としては最後の事業が今までにないものとして計上している。

○（藤野会長）ご質問はありませんか。

○（藤野会長）平成27年度と比べて、新図書館建築調査事業は新たに計上したもののだが、なにか減ったものはあるのか。

○（手束参事）消耗品は市全体で一律に減額になっている。今年度は管理運営事業としてはシステムサーバー機器の入替えがあったのでその分多かった。委託契約のなかで増えている分はあるが、4つの事業で大きく変更したところはない。

○（藤野会長）図書費などが減っているということはないのですね。

○（手束参事）図書費については、本来的に需用費なので減らさなければいけない分はあるが、財政との折衝で現状維持ができた。ただ市の財政状況は厳しい。雑誌スポンサー制度というのが大阪府下の図書館でしているところがある。それはスポンサーになってもらい一年分の雑誌代を払ってもらい、その雑誌にスポンサーの広告を載せ、その雑誌を利用者に借りてもらおうというものである。近隣では羽曳野市、河内長野市、八尾市、岸和田市などがしている。そういうところを調査して来年度検討していきたい。

○（藤野会長）今のこともふまえて質問はあるか。

○（砂山委員）図書館に新しい職員が増える予定はないか。

○（後藤田館長）難しいご質問です。ここ数年市職員の採用は退職者の補充などでしているが、今の段階で図書館に職員がくるのかは難しい。

○（手束参事）市全体の職員が以前は千数百人いたが、今では消防や事務職を入れて八百人を切ってきている。将来的に市の職員の数はどの部署でも減らしていつている。図書館についてはまだ退職者が出てない現状で、現有で回っていくのではないか。

○（藤野会長）他に質問はあるか。

○（田崎委員）予算の数が全くわからない。どのくらいの単位のことなのか。

○（手束参事）図書館の全体の予算としては、正規職員の賃金も入れておおよそ2億4～5千万円くらいである。図書館の管理運営費で見ると、正職の人件費を除いた分では、今年度は9千3百万円くらいである。それは任用職員の賃金や委託契約を入れた分です。読書活動推進事業については、今年度は32万円。障害者支援事業については今年度は33万9千円。電子書籍サービスが245万7千円。微妙に減っている部分とシステムの入替えなどで管理運営事業については数字が変わってきている。議会に上程するために数字が少し変わってくる部分がある。そのほかに職員14名の人件費があり、このような形で図書館は運営されている。

○（藤野会長）今の説明でよいか。同じぐらいの規模の図書館の中でいろいろな運営形態のところと比べられるとわかりやすい。

○（手束参事）数字としてはわからないが、指定管理を導入しているところはかなり人件費は少ない。施設管理ということでは、建物の経費は運営形態によって変わることは

ない。松原市の図書館予算でアルバイト・嘱託・正職の人員費の占める割合は7割ほどである。資料費は1割もない。他市の分析は出来ていないが、運営形態は委託にするか、指定管理にするか、事務職との割合を調整するかなど模索されている。

○（藤野会長）指定管理だと人員費が少し安くなるかもしれないが、今話題にもなっているツタヤの話などもあるのでどちらが良いかは難しい。その他質問はないか。

○（長野委員）今回は新図書館の候補場所などの測量の予算がついているが、建つのは何年度くらいの予定か。

○（手束参事）ある程度予定はあるが、まだ公表できない。予定地が決まった段階ではもう少しちゃんとしたことがお話しできる。

○（藤野会長）次年度くらいには見えてくるのか。

○（手束参事）正式に候補地に決まれば、計画がもう少し前倒しで出てくることになる。

○（藤野会長）そのときまで待ってもらってよいか。ほかに質問はないか。

○（内田委員）障害者支援事業に点字図書などでしていたが、ほかにどのような支援事業があるか。

○（手束参事）事業としては、松原あめんぼテンプライブラリーにデジタイズした図書を今年度は20点くらい製作してもらった、松原市朗読研究会は松原市の声の広報を主に製作している。ほかに体が不自由でなかなか図書館に来られない人の家に本を届ける支援もしている。訪問日数は24日で貸出冊数は400冊弱である。登録者は8名で実際届けている人は6名である。2週間に1回行っている。

○（三浦係長）1回に2～3箇所訪問している。

○（藤野会長）他に質問はあるか。

○（砂山委員）新図書館調査についての予算が付き、新聞にも載っていて、いよいよ動き出したことを知り楽しみにしている。図書館を建てるにあたってもっと市民の意見を聞いてほしいと思う。前にこの図書館を建てる時は、行政と市民がすごく話し合っ、市民のための図書館を建てた。今回も図書館を建てる時には市民がいっぱい使いたいと思う図書館を建ててほしい。建物だけを建てるのではなく、あかちゃんからお年寄りまでみんながいっぱい使いたいと思えるようにするため、市民の意見を聞いてほしい。

○（藤野会長）他に意見や質問はあるか。他に質問が無いようなので事務局よりその他になにかあるか。

○（手束参事）その他として2点報告がある。電子書籍サービスの利用要件として市内在住・在勤・在学の人となっている。市制60周年事業として「松原歴史ウォーク」4冊を刊行した。これらは松原広報で歴史的な内容の記事を掲載しているものを本としたものである。それらを電子書籍としてもアップし、電子書籍の利用の登録が無くとも日本全国各地からでもアクセスできるようにしている。

○（藤野会長）今のことについて質問はあるか。

○（砂山委員）その電子書籍を見ながら松原市を歩くことが出来るか。

- （手束参事）その本は文化財課で作られ、広報の歴史ウォークのページに載せたものを刊行したもので、どこにどんな神社があるというような内容になっている。
- （後藤田館長）松原市には身近に歴史的なものがあるので、それを知ってもらいたい。そのため利用の要件を取って誰にでも見ていただけるようにしている。
- （砂山委員）どこかの市はそういうのを見ながら町の観光を出来るようになっている。
- （後藤田館長）そのように発展していけばよいと思う。
- （手束参事）登録がなくてもアクセス出来るので試してください。
- （藤野会長）この内容について質問はないか。その他で事務局からないか。
- （手束参事）新図書館建設に向けて図書館職員で視察に行ったので、簡単な報告をします。八尾市に最近行った。2年前の5月に八尾図書館がリニューアルした。八尾市役所前にあり、延床面積が3,800平米、地下1階と地上3階建になっている。ここはICタグと連動しているゲートがあり、自習室など答申に沿った内容のものがいくつか入っている。児童コーナーなど開架が全般に低く配置されていて見通しがよくきき、授乳室があり、外はガラス張りで明るい。2階にはレファレンスコーナーがあり、OPACで蔵書検索ができ、対面朗読室や野外テラスがある。4階は自習スペースになっている。松原市ではこの集会室を夏休みなどだけ自習室にしている。専用の自習室がないので、読書会とか催し物があるとかがぶってしまう。八尾図書館でリニューアルにあたり行政として必要な準備についても聞いてきている。また八尾市の龍華図書館が今年度から開館しているが、こちらだけ指定管理で運営していて、その他3館は直営で運営している。龍華図書館にも個人的に行ったが、学習スペースや、子どもによみかかせするコーナーを2階に設置してガラスで区切ってにぎやかエリアとしている。八尾市だけでなくいろいろな図書館を見学し、新しい図書館の建設に反映させていきたいと思う。来年度も視察に行きたい。また視察に行ったら報告したい。今資料の用意がないが、次回にそのような資料があれば見てもらえるようにしたい。
- （藤野会長）質問はあるか。
- （藤野会長）指定管理と直営の割合はどのようなものか
- （手束参事）手元に資料がないが、この近辺では大阪狭山市が指定管理である。八尾市はテストケースとして1館が指定管理になっている。東大阪市も指定管理で徐々に増えてきている。八尾市は他市と違って、選書は指定管理のところと一緒にしている。八尾市はICタグだけでなく読書通帳をしている。読んだ本のタイトルが自分の通帳のなかに貯まっていく。大阪府下の図書館の会議で話題になり、大阪市では利用者から読書通帳をしないのかと言われているとのことである。指定管理については日本図書館協会からでている数字があるのでまた次回には用意をしたい。
- （藤野会長）他に質問はないか。
- （永田委員）視察は個別にしているのか、体系的に大阪府下や府外にしているのか。
- （手束参事）いろいろな情報を見て、直営のところとして八尾市を見学した。指定管理

のところとして、府外だが TRC が経営している最新の図書館を見学するのもよいかと思っている。その図書館の書庫は電動で本を運んでくるものだが、開館当初は出てくるのに5分以上かかったり、混んでくると稼働しなかったりすることもあったと聞いている。そういうものを導入しても人は減らせないのではないかと思う。

○（永田委員）見学する際に、こういう場所でどういう図書館に行けばよいかを話し合うのではなく、報告を受けるということか。

○（手束参事）業界団体から最新の図書館の情報を入手したり、図書館の雑誌に載っている新館の図書館をピックアップして5つくらい資料を取っている。その中から面積規模や目指す機能が同じような図書館に照会をかけ、そして見学に行くかどうか決める。見学を来年度2～3館行きたいと思う。八尾市も新館を建てるにあたり他の図書館を見学に行ったと言っていた。松原図書館も今の図書館を建てる時に他市に見学に行ったと聞いている。新しい図書館を視察しようと思っている。

○（永田委員）そのような質問をなぜするかと言うと、貸出通帳に興味があって、本学の図書館でも導入できないかと打診をしているところである。機械化するのは難しいということであるが、大学図書館でも行政の図書館でも全国でもユニークな取り組みをしているところがある。その中で新館を建てるにあたり、成功事例を集約していきどこかの形でまとめて情報共有をできればよいと思う。

○（砂山委員）その時にぜひ市民の意見を聞いてもらって、それに沿うような図書館を視察に行ってほしい。ただそこが最先端だからという理由であっても、それが松原にそぐわなければ、市民に利用しやすい図書館にならない。

○（後藤田館長）大筋ではH25年に答申が出ていて、大きな枠組みやどのような方向に向かうかは出ている。細かいところではいろいろなところで取り組みがなされている。正式には決まっていないが、協議会のような場所でいろいろな情報を出してもらって、新しい図書館の中身に入れていくということをできればと思う。今日はまだ調査ということなのでそこまではいっていない。

○（藤野会長）おっしゃっていることは事務局もよくわかっていると思う。もう少し見えてきたときに全体の情報を教えてもらえると思う。他に質問はあるか。なければ次回日程については事務局いかがか。

○（手束参事）来年度の6月から9月頃に開催したい。日程については後日改めて事務局より連絡するのでよろしいか。

○（藤野会長）次回開催日程については事務局より連絡するのでよろしく申し上げます。図書館協議会を終了する。